



こぶし

令和元年12月26日

第10号

支笏湖小学校

校長 小川 亮男

令和元年度 学校重点教育目標
『実践力（できる）へとつながる学校教育活動の推進』

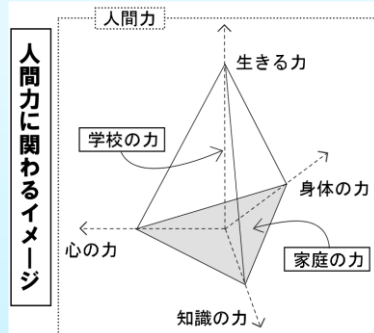
児童たちが社会に出る頃

校長 小川 亮男

極月、年末を迎える中、風不死岳の山頂が雲で覆われる日が多くなりました。毎朝、えさ台に児童が置くヒマワリの種を求めて多くの野鳥が集まり、大賑わいを見せています。ゴジュウカラやシジュウカラ、ヤマガラに加え、アカゲラやシメなども見られるようになりました。支笏湖の自然の素晴らしさを改めて感じさせられる日々です。それにしても、例年だと雪が積もり、スケートリンク造成が始まる時期なのですが、その積雪がなく、ご心配をおかけしているところです。

12月8日（金）4校時 ひさし君とのお別れの会が催されました。ひさし君が感謝を込めて作ったパンケーキをみんなで食べながら、ゲームをして最後の楽しい一時を過ごすことができました。笑いあり、そして涙ありのとても心温まる時間でした。ひさし君を含め児童一人一人の人としての成長を感じることができたひとときでした。今でも時折、ひさし君の話題があり、懐かしむ子供たちの様子を見て「良い子たちだな」と感じています。

子供たちが待ちに待った冬休みを迎えます。この冬もインフルエンザや感染性の胃腸炎に注意が必要ですが、一日の生活リズムに気をつけ、誰もが元気で、事故もなく、冬休みならではの充実した24日間を送ってほしいと願っています。日頃忙しさに紛れ、心穏やかに過ごすことのできない日常があります。この年末年始、日本の伝統的な文化やしきたりに触れるなど、日本の風情の良さや雰囲気を楽しむながら、お正月を挟んでゆっくりできることと思います。家族での時間を大切に、一年の計をたて、心新たに新年をお迎えください。



これまで学校だよりで「教育が変わる」ということを書いてきましたが、それは国力を維持するために、国が必要としているということになります。昨年7月に「Society 5.0 に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～」と題して書いたことが、着実に学校に押し寄せてきています。

コンピュータができた当初、人はいらなくなるのではとさえ言われましたが、結果そうではなく、使いこなす人が必要となりました。今到来している「AI を中心とする技術革新」で仕事がなくなると騒がれていますが、前回の技術革新と同様、使いこなす人が必要となるということだと思います。近いうちに「AI 搭載型のPC」が家庭向けに販売されます。つまりAI が当たり前になります。特に、音声認識はめざましく、今では大抵のものが声で動かせるようになっています。実は、この文も一部、音声入力で作ったものです。もしAI 搭載PC なら、この下手な文章も適切な文に作り替えてくれるのでしょうか。PC と普通に会話ができる、これは家庭向けの「2001年宇宙の旅」のHAL の登場です。

IBMの「Watson (ワトソン)」が一般公開され、企業や大学生、一般人でも使えるようになりました。もの凄い時代になったと思います。「普通に会話していた相手が実はAI だった」という時代がもう目の前にきていると感じています。今の支笏湖小の児童が社会に出る頃には……。(実は昨日、プログラミング教育について校内研修をしました。その際に説明しながら思ったことを今回、書きました。)

今年の本校教育に対する皆さまのご理解と多大なるご支援に感謝し、新年が子どもたち、地域・保護者の皆さまにとって、よりよい年になるよう心からお祈り申し上げます。